

Japan Evangelical Theological Society

日本福音主義神学会

J·E·T·S·NEWS Vol.15

発行所/〒270-13千葉県印旛郡印西町船尾301-5-1東京基督神学校内

日本福音主義神学会への
主の期待

全国理事長 真鍋 孝

日本福音主義神学会への主の期待は何であるか、またそれにどのように応えていくべきかを考える上で、私達の出発点となるのは主御自身の御旨が明確に啓示されていることばである。当然のことではあるが、福音主義神学会は何をするにも聖書のみことばを土台とすべきではないかと思う。聖書主義を標榜する私達はその実践者でなければならない。そこで、主が日本福音主義神学会に望んでおられるのが何であるのかを祈り求めているとき、示された聖句を中心に話しを進めたい。

ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一一致とに達し、完全におとなになつて、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。

エペソ四・13

この聖句と前後から、日本福音主義神学会に関して次の事柄が示された。

神学会の活動は、キリストのからだなる教会を建て上げる目的を明確に持たねばならない。

文脈から、福音主義神学会に属している会員は、キリストから賜物をいただいて伝道者、牧師、教師その他の務めに任じられていることが明らかである。そしてこれらの務めは、エペソ四・12によると教会を建て上げる目的を持つているのである。ここから非常に大切な教訓を学びたい。神学会の活動は決して教会から遊離してはいけないということである。今回マニラで開かれた世界福音同盟の総会においても再確認されたことではあるが、キリストのからだの具体的な表れである地域教会で地道な伝道牧会の働きにある主の器に励ましを与え、眞の助けを提供するよう活動を神学会は続けねばならない。

神学会の究極的な目標は、キリストに関する知識の一一致を得ることである。

四・13は、新改訳では「ついに」ということばで始まっているが、

原文ではメクリという接続詞が使われており、究極的に目指していく方向が明らかにされている。ここで大切な観察が出てくる。福音主義に立っているとしても、私達はまだ信仰の完全な一致と、神の御子に関する知識の完全な一致とに達していないという事である。基本的な教理は問題ないとしても、福音主義神学陣営内で、まだ十分に一致していない部分のあることは事実である。であるから、よりよい一致を目指して互いのみことばの学びを分かち合うのである。昨年十一月京都で開かれた研究会議は聖靈論を扱つたが、その良き一つの例である。私達は互いに裁き合つたためではなく、神が意図されているみことばの理解の一貫性を得るために、互いの相違を率直に出し合つて学び合うのである。終末の完成を迎えるまでに、一致をみることのできないものも残るかも知れないが、私達は信仰とキリストの知識の完全なる一致を求め続けてゆかねばならない。

神学会の活動は、神の啓示の書である聖書の解明かしと理解に関するものでなければならぬ。

これは聖書主義に立つ神学会であれば当然なことだが、この当然な事をあくまでも続けてゆく神学会であり続けたいと願う者である。

学 会 誌 編 集 委 員 会 報 告

学会誌「福音主義神学」

編集委員 木内伸嘉(東部)

金田幸男(中部)

石黒則年(西部)

鍋谷堯爾(顧問)

学会誌の編集のために数回の編集委員会が開かれました。その話

合いの要点は次の通りである。

●全国理事会席上(五月二五日、名古屋)への報告事項

①木内、石黒の両編集委員より「福音主義神学」第二二号(特集「救済論」)の出版報告をなした。

賛助広告も希望とおりの掲載者がおり、好評のうちに頒布されている。ちなみに、いのちのことば社卸部への委託販売(売上)

は年間約十六万円であり、編集委員会扱いの学会誌売上げ(全

国への通信販売・四万五千円)

も順調であった。

②第二三号編集プロセスの説明を行なった。予定されている掲載論文、内容および目次は次の通りである(敬称略)。

特集「聖靈論」
卷頭言
第六回全国研究会議
準備委員長 有賀喜一
論 文
聖靈と現代(仮題)
論 文
聖靈と現代(宣教學)
論 文
聖靈と現代(仮題)

牧田吉和(組織神学)

イエスと聖靈

村上久(新約学)

聖靈と宣教

増田譽雄(実践神学)

聖靈の賜物

松木祐三(実践神学)

宗教改革時代の聖靈論

丸山忠孝(歴史神学)

聖靈の賜物

伊藤明生(新約学)

懸賞論文(募集中)

文献資料「旧約における神の靈」

書評数木内伸嘉(旧約学)

篇(投稿も可能)

Carson, *Showing the Spirit*,
BakerほかPacker, *Keep In Step with the**Spirit*, IVP.

●懸賞論文執筆候補者の推薦を要請した。(懸賞論文は、主にこれまで論文発表のなかつた方にについて研究助成の意味合いをもつて募集している。神学校卒業生の卒業論文などの寄稿を期待している。テーマは「聖靈論」に限定されない。研究助成金は秀作十万円、入選は五万円。

④第二四号は「礼拝論」(説教論、教会建築、教会美術、教会音楽なども含む)ないし「科学と信

仰」といった特集を考慮中である。

●全国理事会からの連絡事項予算について
①学会誌売上げ
二二一万円
②広告費収入
三四万円
③学会誌印刷費
一二五万円
④学会誌編集費
一二一万円
⑤研究助成金
三万円
⑥名簿印刷費(中部)●次回の編集委員会について
主要論文が出そろった時点で、懸賞論文の審査、目次の最終決定などのために開催する。

■会計報告

福音主義神学会(全国会計) 1991年度決算報告ならびに1992年度予算

| 項目 | 収 | 入 | |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| | 1991年度予算 | 1991年度決算 | 1992年度予算 |
| 東部負担金 | 740,000 | 740,000 | 740,000 |
| 中部負担金 | 110,000 | 90,000 | 130,000 |
| 西部負担金 | 500,000 | 500,000 | 500,000 |
| 全国学会誌売上 | 200,000 | 205,000 | 210,000 |
| 広告代 | 300,000 | 340,000 | 340,000 |
| 献金 | 0 | 4,927 | 0 |
| 借入金 | 0 | 0 | 0 |
| 小計 | 1,850,000 | | 1,920,000 |
| 前期繰越金 | 199,281 | 199,281 | 392,610 |
| 合計 | 2,049,281 | 2,079,208 | 2,312,610 |

| 項目 | 支 | 出 | |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| | 1991年度予算 | 1991年度決算 | 1992年度予算 |
| 学会誌印刷代 | 1,400,000 | 1,272,460 | 1,400,000 |
| 学会誌編集代 | 210,000 | 210,000 | 220,000 |
| 理事会費 | 100,000 | 92,900 | 90,000 |
| 事務通信費 | 20,000 | 6,238 | 20,000 |
| 研究助成金 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| ニュース印刷代 | 50,000 | 0 | 50,000 |
| 全国名簿印刷代 | 0 | 5,000 | 30,000 |
| 予備費 | 69,281 | 0 | 202,610 |
| 借入金返済 | 100,000 | 100,000 | 200,000 |
| 小計 | 2,049,281 | 1,696,598 | 2,312,610 |
| 次期繰越金 | 0 | 392,610 | 0 |
| 合計 | 2,049,281 | 2,079,208 | 2,312,610 |

出版基金会計 1991年度決算報告

| 収 | 入 | 支 | 出 |
|-----------|---------|-------|---------|
| 全国会計からの戻し | 100,000 | | |
| 前期繰越し | 108,421 | 次期繰越し | 208,421 |
| 合計 | 208,421 | 合計 | 208,421 |

◇九二年三月一三日(金)

▽第6回全国研究会議に中部から6人参加。

▽学会誌は手違いで遅れたが、総会案内とともに送付する。

▽総会と神学講演会について

日時:五月十一日(月)

会場:金山キリスト教会

▽中部部会名簿作成は入川氏が西部にフロッピーを送る。

▽会員の移動

・小林剛男氏の退会を承認

・東正明氏の西部からの転入を承認。

・相馬伸郎氏の入会を承認

▽理事改選の件

会年度の改選理事、鈴木氏、水上氏、河野のうちの水上氏、

明田氏、西堀氏の六名を候補として推薦し、三名を選出する。

▽秋季研究会について

日時:九二年十一月
研究発表を打診する。
(1) 安田氏 (2) 松浦氏

◇九二年五月十一日(月)

▽理事改選結果

水上氏、末松氏、河野が選出された。

二、研究発表会(金山教会)

日時:九一年十一月十一日

◇第二回(一九九一年九月三〇日)

▽入会、退会などの手続きをし

(1) 奥深山氏「同盟高山教会の週報に見る戦時の礼拝」
(2) 安村氏「ロシア文学における聖書的課題」

(1) 主題「聖靈論」のもとに、一三〇名をこえる参加をえ、よい研究会議となつた。福音神学校、神戸ルーテル神学校の学生の奉仕を感謝する。

(2) 会計も満たされ感謝であつた。

▽会計状況の報告がなされ、会費の納入、学会誌の販売に力を入れることにした。

▽会員名簿が作成され、各部会を通じて配布された。

▽全国研究会議の準備をした。

▽第三回(一九九一年一二月二七日)

▽全国研究会議・一一月一八日(二〇日の報告を、委員長の真鍋理事から受けた。

▽理事会の構成

理事長・有賀喜一、会計・鷹取裕成。書記・勝原忠明。一般・入船尊、橋本昭夫、工藤弘雄、村田充八、真鍋孝、市川康則、石黒則年、滝浦滋、唄野隆。

(顧問・鍋谷堯爾、高橋久之、橋本龍三、安田吉三郎)

▽秋の全国研究会議の準備担当委員、実行責任などの分担をした。

▽会計状況の報告がなされ、会費の納入、学会誌の販売に力を入れることにした。

▽入会、退会などの手続きをし

西部部会報告

二、一九九二年度総会、春期講演会(四月二七日、神戸改革派神学校)

▽総会 説教・有賀喜一氏

▽講演会 鍋谷堯爾氏「最近の旧約学の動向」

▽理事の構成 理事長・真鍋孝、書記・橋本秋昭夫、会計・鷹取裕成。

▽全国研究会議・一一月一八日(二〇日の報告を、委員長の真鍋理事から受けた。

(1) 主題「聖靈論」のもとに、一三〇名をこえる参加をえ、よい研究会議となつた。福音神学校、神戸ルーテル神学校の学生の奉仕を感謝する。

(2) 会計も満たされ感謝であつた。

▽会計状況の報告がなされ、会費の納入、学会誌の販売に力を入れることにした。

▽入会、退会などの手続きをし

▽改選理事を含めた新理事会

金田幸男氏、入川達夫氏、安村仁志氏、水上勲氏、

末松隆太郎氏、河野勇一

役職分担は次回理事会で決

定する。

▽一九九二年度の改選理事の候補者を選んだ。

▽唄野隆理事を、九二年度から顧問としてお願いすることにした。

▽名譽会員の宇崎竹三郎先生が召天されたとの報告を受けた。

▽改選理事の準備を受けた。

▽一九九二年度の改選理事の候

補者を選んだ。

▽唄野隆理事を、九二年度から顧問としてお願いすることに

